

昭和63年度

幼児教育における教材データベースの構築

～幼児の表現活動を重点にして～

川崎市総合教育センター 幼児教育研究会議
視聴覚II研究会議

幼児教育における教材データベースの構築

～幼児の表現活動を重点にして～

幼児教育研究会議 新井典子¹ 青柳道子² 内藤千恵美³ 斎藤 勝⁴
 視聴覚Ⅱ研究会議 長沼国徳⁵ 金子吾朗⁶ 河野麻子⁷ 原 勤⁸

要 約

社会の著しい変化の中で、人間形成の基礎を培う時期の子どもたちを預る幼稚園においても、幼児の生活や思考に応じられるような多くの教材が求められている。また、指導計画の立案が、保育者一人一人に任されている幼児教育の場に、より良い教材を導入することで豊かな活動を促すことができる。そのために、総合教育センターでは、まず市立幼稚園20園を対象に教材や情報を収集し、コンピュータを利用して分類整理保存を行い、利用者が必要な時にすぐ資料を取りだせるよう資料のデータベース化を進めてきた。将来的には他の公共施設等が教材や情報を互いに共有していくことにより、生涯学習の一翼を担うことができるものとする。

今年度は、音楽やリズムの表現活動にかかわる図書・レコード・スライド等の視聴覚教材、指導計画、研究紀要、指導案を中心に資料を収集し、入力を行った。また、「保育により密着したビデオ教材を…」と言う多くの声から、表現活動を行うための教材を中心に約150本のビデオも制作した。63年度末現在、入力した資料の総数は1300件となっている。今後の課題として ①データベース完成のための入力の継続 ②各幼稚園の開発教材の収集 ③システムの活用の推進および見直し・改善等があげられる。

キーワード：幼児教育，開発研究，データベース，教育情報，ビデオ教材

目 次

I 主題設定の理由	202	2. 入力に際しての設定事項	209
II 研究の目的	202	3. 資料の収集から入力まで	210
III 研究の進め方	204	4. 検索の実行と情報の提供	213
IV 研究計画	206	5. ビデオ教材の現状	214
V 研究内容		6. ビデオ教材の制作	216
1. 教材データベースの全体構造	208	VI 考察	219

¹梶谷小学校付属幼稚園教諭

⁵幸町小学校教諭

²川崎小学校付属幼稚園教諭

⁶南菅中学校教諭

³新城小学校付属幼稚園教諭

⁷向丘小学校教諭

⁴川崎市総合教育センター主幹

⁸川崎市総合教育センター指導主事

I 主題設定の理由

社会の情報化、生活の多様化の中にあつて、一人一人の幼児の個性の芽生えを促し、豊かな感性を育む幼児教育を行うために、多くのより良い教材についての情報が求められている。各保育の場において、個に応じるすぐれた教材の収集や開発が行われているが、現状は、各幼稚園内での利用にとどまっている。しかし、保育活動をより充実していくためには、各保育者が開発した教材についての情報や、幼稚園、その他の公共施設の持つ幼児教育の資料についての情報や教材の相互交流と共有化が望まれる。

そこで、情報や教材を収集、分類、整理、蓄積することにより、いつでも、すぐに必要な情報を提供できるシステムの開発を試みることにした。

このシステムは、幼児教育にかかわる情報や教材を幅広く収集してデータベース化することにより、その課題に対応しようとするものであるが、将来的には、生涯学習の中における幼児教育にも活用が期待できるものである。

以上のような観点から、情報機器が発達した現在、上記のような教材データベースの構築は幼児教育の充実に大きな意味を持つものと考ええる。

II 研究の目的

1. 研究の目的

主題設定の理由にも述べたとおり、この研究は情報や教材の提供の効率化と多様化をねらいとした幼児教育教材データベースの構築を目的とする。

この構築を行うことにより、次の事柄が達成されると考えられる。

- ① 幼児教育のより良い教材についての情報や教材の収集と蓄積
- ② 幼稚園、その他公共施設の持つ幼児教育の情報や教材の共有化
- ③ 必要な情報や教材の提供
- ④ 資料や教材の記録と保存
- ⑤ 情報や教材提供の効率化

2. 研究の視点

(1) 教材データベースの構築に向けて

「幼児期は、人間形成の上でひじょうに重要な時期であることはいうまでもなく、心身が著しく成長発達するときである。個人差はあるが、じぶんの思っていること、考えていること、感じていることを、外に表現しようとする欲求に燃えている。そのために、幼児はいろいろな身体の動きや、造形的、あるいは音楽的な活動などを行う。また、幼児は、歩くときしげんにリズムをとって歩いたり、軽快な歌や曲を聞けば、そのリズムによってからだを思いのままに動かす。友達といっしょに歩けば、手をつないで歌いながら歩いたり、スキップしたりなどする。」（幼稚園指導書）

このような幼児の特性から自然に生まれ、作られ、遊ばれているものや、その特性をいかした「音楽に関わりのある活動」が保育の重要な位置を占めている。

みんなと歌うことは仲間を意識し、気持ちを解放する。友達との手遊び・指遊びは、互いに触れ合うことで仲間意識や協力、連帯の感覚を養い、社会性の芽生えも促していく。

こうした意味から62・63年度は、幼児教育教材データベースの第一段階として、目標を幼児の生活を豊かにする「音楽に関わりのある活動」におき、市立20園を対象として情報や教材の収集を行い、入力することによって、データベースを構築することとした。

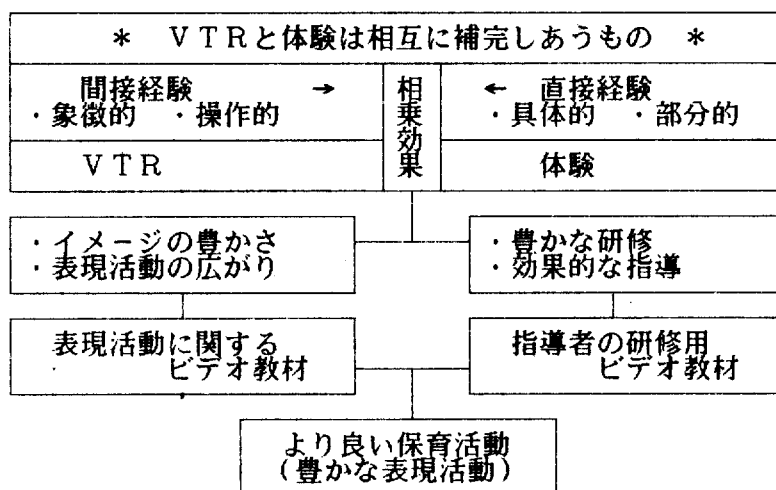
(2) 教材開発へ向けて

幼児の表現活動の目的として「豊かな表現活動を通して、子どもの感性を磨き育てていく。」ということがあげられる。豊かな表現活動には、豊かな経験が必要とされ、特に、実際に五感を働かせ経験を深めることは、幼児にとって最も大切な学習方法といえる。しかし、幼児の行動範囲はまだ狭く、経験の量は限られている。たとえ、身近な動物や植物などにしても、実際には、その実態の一部分しか触れることができない。

ビデオは、ふだん見ることのできないものの動きを効果的に見せてくれたり、瞬間の動きや長く見ないと理解できない様子などを時間を超越して見せてくれる。ビデオ教材は、幼児の経験のある部分では補いながら、その経験とビデオが結びつき相乗的な効果をあげ、幼児の思考活動や言語活動を活発にし、創造性豊かな表現活動になる。

また、教師の研修にあたって、今までは歌や動きなどを書物から学ぶことが多かった。したがって、言語表現や雰囲気は具体的に知ることはできなかった。指導者の働きかけが直接に伝わったり、雰囲気を感じたりするためには、ビデオ教材が効果的であり、短時間で効率的に研修を進めることができると考える。

したがって、本研究では、この2つの視点に基づき教材を開発することにした。



図一 1

Ⅲ 研究の進め方

この研究は、幼児教育の教材開発を中心として、教材データベースの構築を進める幼児教育研究会議と、幼児教育における映像教材の開発を進めるプロジェクト、視聴覚Ⅱ研究会議との共同研究である。

幼児教育研究会議は、各幼稚園、保育所、社会教育施設、その他幼児教育に関わりのある施設に資料・教材の提供を依頼し、情報の収集をする。また、保育指導に必要な資料・教材を開発する。それらを整理分類し、加工、蓄積することによって、幼児教育における教材データベースの構築を進める。

視聴覚Ⅱ研究会議は、幼児教育における表現活動のための映像教材を重点に開発し、保育指導における映像教材の利用効果の研究を進める。

視聴覚Ⅱ研究会議の研究として制作された映像教材を、教材データベースに組み込むことにより、利用者が必要とする資料・教材の形態、内容、所在等の情報を得るだけでなく、必要に応じ保育指導に、ただちに使える保育教材の提供も可能となる。

幼児教育における教材データベースの構築に際して、必要とされる情報についての閲覧や、印刷教材・映像教材としてコピー、ダビングすることにより、保育指導にすぐ使える資料を提供できるようにすることが、データベースの利用効果を高めることとなり、同時に利用者のニーズにも応えることとなると考える。

このことによって幼児教育の場では、より多くの、より適切な資料・教材を有することになり、一層、充実した保育が期待できることとなる。

それぞれの研究の視点を次のようにおく。

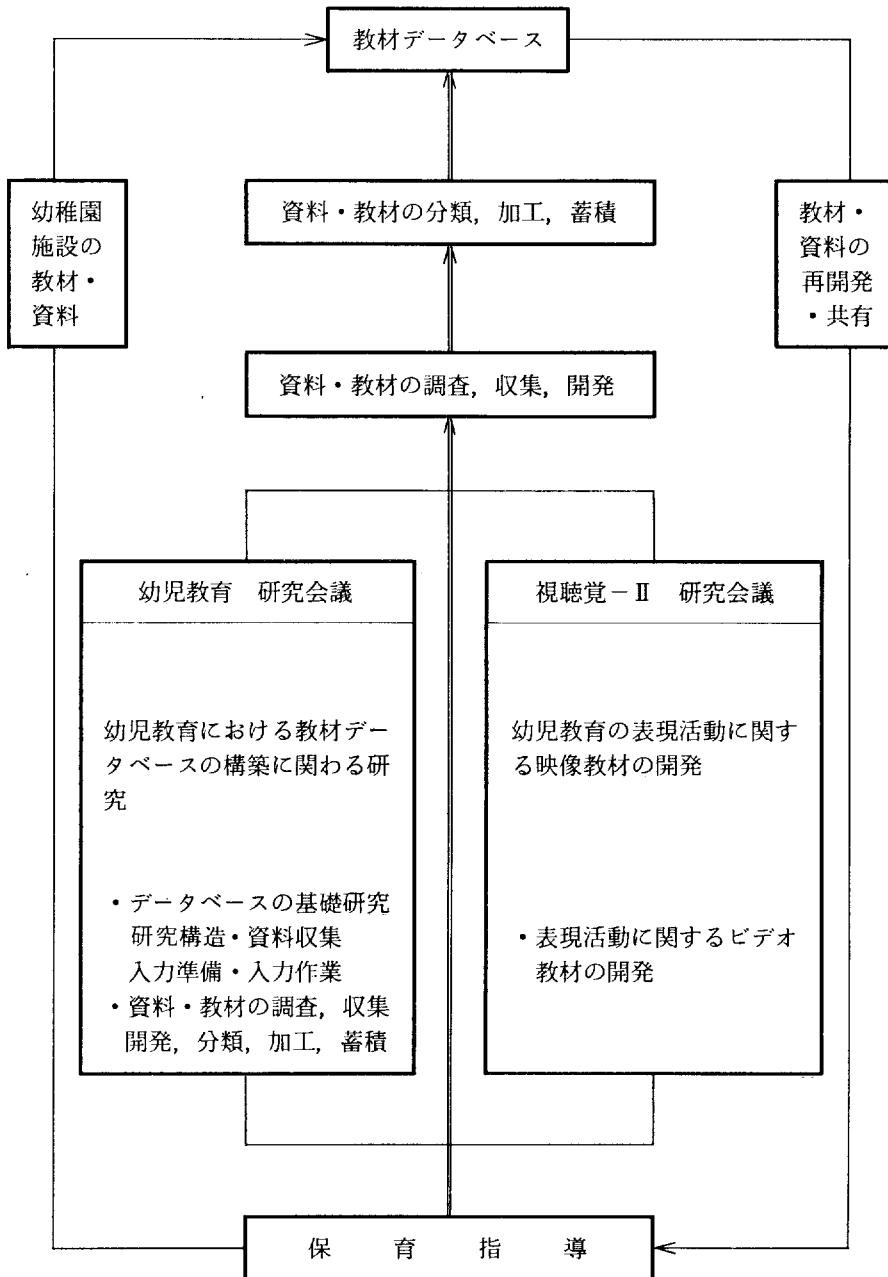
幼児教育研究会議

- ・データベースの構築と保育指導との関わりを明らかにする。
- ・資料の入力から検索によって保育者に提供されるまでの、データベースの内部構造を明らかにする。
- ・データの入力作業過程を明らかにする。
- ・どのような資料を、どのような方法で収集するか、入力資料の収集方法を考える。
- ・収集した資料を、どのようにコンピュータに入力するか、その諸作業を明らかにする。

視聴覚Ⅱ研究会議

- ・ビデオ教材の現状を調べ、制作するビデオの題材を決める。
- ・制作の視点を明らかにし、教師用・幼児用のビデオ教材を制作する。

図-2 研究の進め方



IV 研究計画

この研究は、幼児教育の資料・教材等を必要とする者が情報を効率よく検索し、必要な情報を入力することができるシステムを作ることである。そのため様々な情報や教材を収集、分類し、整理、蓄積して、提供についてのシステム化を図る。

そのため次のように研究計画を立案した。

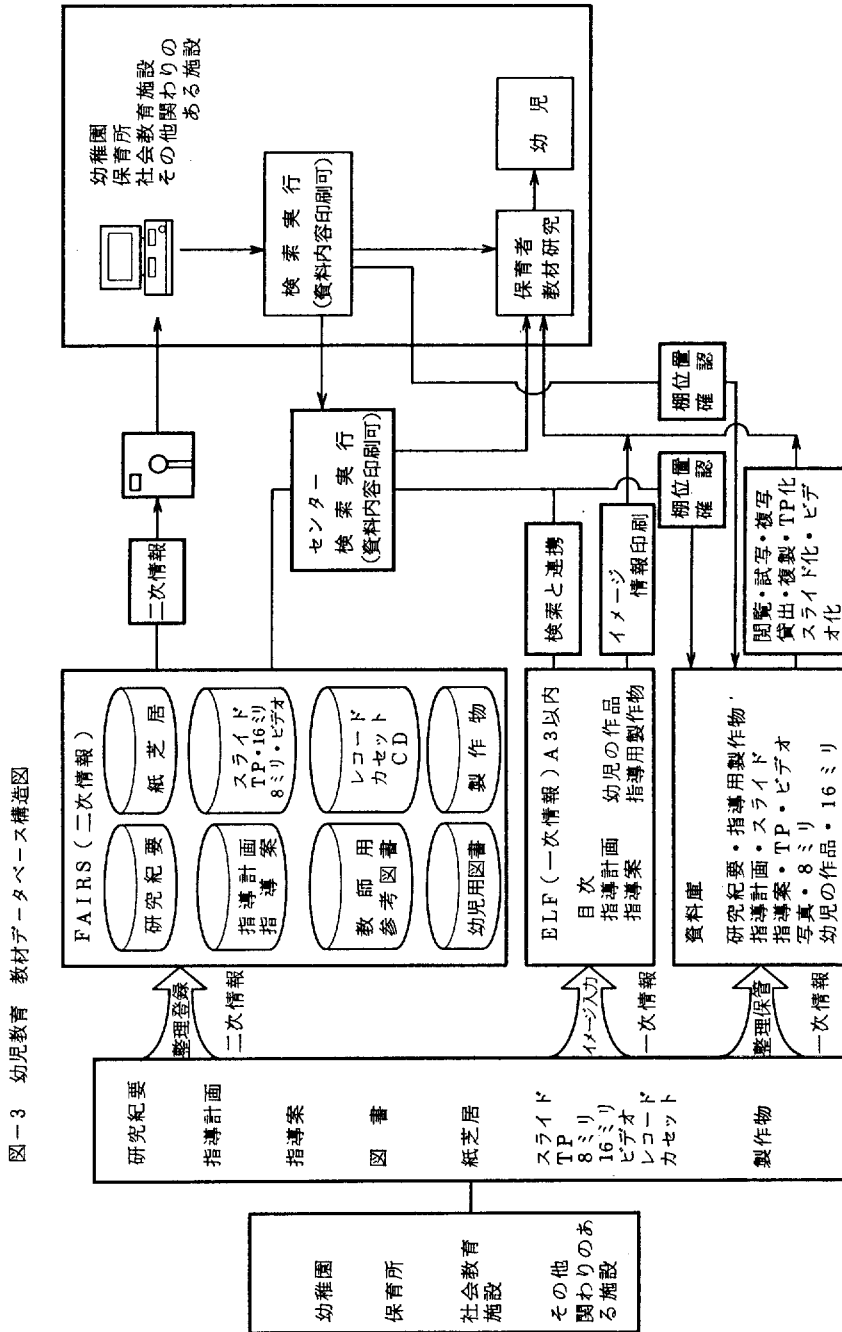
年	月	幼児教育研究会議	視聴覚研究会議
62	4	研究主題の決定	研究についての話し合い
		研究主題についての共通理解	研究主題についての話し合い
	5	データベースについての研修	
		資料教材収集1 保育活動の整理（収集1）	幼児教育についての話し合い 表現活動についての話し合い
	6	研究内容の共通化・教材の洗い出し	
		資料の種類分類検討	映像技術の研修
	7	1 領域別	撮影対象の検討・日程調整
		2 単元別	ザリガニ・カニの撮影
		3 教材別	
	8		上野動物園で撮影 7月－8月随時取材
	9		教材の試作と検討
		9月29日 梶谷小付属幼稚園での研究保育	
10	用語群の抽出整理	授業の分析	
	資料の種類分類試案作成	授業の分析・試作ビデオの検討 教育工学の大会に参加・研修	
11	用語群一覧作成	ビデオの制作・制作の視点の検討	
		アンケートの内容検討	
12		11月24日 川崎小付属幼稚園での研究保育	
	入力整理用紙検討開始	授業の分析・制作の視点の検討	
63	1	12月8日 新城小付属幼稚園での研究保育	
		資料・教材収集2 収集2の整理	中間報告書の原案検討 中間報告書の内容検討
		中間報告書のまとめ	

		幼児の映像効果についての研修	
63	2	研究方向・内容の検討	教師用教材の撮影計画立案
	3	↓	植物の撮影
	4	研究計画の確認	動物の撮影
	5	入力資料整理用紙 記入の手引き作成	幼稚園での撮影（随時撮影） 教師用教材の撮影・編集
	6	入力用紙整理番号 記入の手引き作成	素材ビデオの編集 自然の撮影・編集
	7	入力資料整理用紙の記入 入力資料の整理・分類・修正	素材ビデオの編集 昆虫類等の撮影
	8	資料・教材の入力開始	入力資料整理用紙の記入 素材ビデオの編集
	9	イメージ資料入力 9月14日 川崎小付属幼稚園での研究保育	
		用語群の修正 9月20日 新城小付属幼稚園での研究保育	
	10	検索システム実行開始	研究報告書の検討
11		素材ビデオの編集 県教連での報告	
12	資料・教材収集3 入力資料整理用紙の記入	教師用教材の撮影・編集 素材ビデオの編集	
64	1		研究のまとめに向けて
	2	イメージ資料の入力	素材ビデオの編集 入力資料整理用紙の記入
	3		研究のまとめと考察
		↓	

V 研究内容

1. 教材データベースの全体構造の構想

資料の収集から提供までの流れと、その中の教材データベースの位置を明らかにする。



2. 資料・教材の入力に際しての設定事項

(1) 資料の区分の決定

資料・教材を探す時収集したものを効率よく提供できるまとまりを検討した。

- 選定の条件——
- どのまとまりにも資料・教材が偏らずにある。
 - 検索する場合、何回も用語で絞る必要がない。
 - 同一の資料が、重複して他の種類に入らない。
 - 保育内容と教材とが混合しない。
 - 教材の形態が明確である。

資料の種類——形態別 8 個

1. 研究紀要	5. 製作物
2. 教師用参考図書	6. スライド・TP・8ミリ・16ミリ・ビデオ
3. 幼児用図書	7. レコード・カセット・CD
4. 紙芝居	8. 指導計画・指導案

(2) 用語群の選定

索引語をまとめた用語群は、コンピュータ入力資料収集整理用紙記入作業を始める段階で、ほぼ決まっていなくては記入作業が行えない。用語群から索引語を選び、用紙の「内容を表す用語」欄に記入するためである。そのため、保育活動、指導計画、保育教材を参考にして、教材データベースを利用する時によく使われると思われる用語を抽出し、検索用語として選定した。選定にあたっては「幼児教育全般にわたり設定すること、他の分野の入力時に大きな修正をしないこと」を考慮し、次のような条件づけをした。

- 選定の条件——
- 同意義の言葉は、使用頻度の多い言葉を使う。
 - 語数の増加をおさえ、検索しやすくする。
 - 単語の入力を原則とするが、特に名称として一般的に使われている
8文字以内の文節も、必要なものに限り入れる。

コンピュータ入力資料収集整理用紙の索引語欄は、この用語群から関係する索引語を探し記入する。また、用語群にない言葉でも必要と思われる用語を索引語として加えることもできる。「内容を表す用語」欄に記入された索引語と検索実行時に入力された索引語との使用頻度の比較を行い、より適切でよく使われる索引語について検討したいと考える。

(3) 入力資料収集整理用紙の書式決定

- ① 川崎市総合教育センターの入力資料収集整理用紙の形式に準ずる。
- ② 他のデータベースと区別するために、印刷の色を変える。
- ③ 受付番号の頭にYをつけ、幼児教育としての登録をする。
- ④ 市販の資料・教材が入力できるような項目だてを考える。

(4) 入力資料収集整理用紙の記入の手引きの作成

教材データベースの構築についての先進研究である、当センターの「社会科郷土資料」の手引きを参考にして、コンピュータ入力資料収集整理用紙の記入方法について、具体的な例をあげた手引き書を作成する。

手引き書の作成によって記入についての観点を明確にして、記入の統一・記入の共通理解を図る。

(5) 入力資料の整理番号記入の手引き（教材データベース管理者用資料）作成

収集資料を入力する場合、資料の種類別に整理番号をつける。分類番号は、川崎市総合教育センターの資料の分類表を参考にして作成する。この手引きを作成することにより、研究の担当が変わってもデータベースの入力方法について、常に共通理解され、一貫性を持つこととなる。

データベース別に自由に使用できるQ～Uについては、幼児教育として特色のある教材形態を当てることとした。

3. 資料の収集から入力まで

(1) データベース構築のための資料の収集

- ① 資料・教材の収集及び提供についての一覧を作成し、入力の重点を決める。
 - ア. 市立幼稚園6園の年間指導計画・週案から、五才児・一年保育で行われる全ての保育活動を洗いだし、その中から資料・教材の収集ができるものを選び出して、それぞれについて提供の形を考えた。
 - イ. 幼稚園の持つ教材を選び出し、それぞれについて提供の形（印刷教材、映像教材等）を考えた。
 - ウ. 上記アの保育内容とイの教材の形態の2つを合せた一覧を作成し、その中から入力の重点を決めた。
- ② 20園中、幼児教育研究会議研修員のいる幼稚園及び、音楽リズム領域について自主研究を行った幼稚園の合計6園を対象に予備調査を行い、資料の情報収集の参考とする。また、その情報をもとにして、川崎市公立幼稚園連絡協議会に、入力についての協力を依頼する。
- ③ 各幼稚園から、62・63年度の資料収集の重点とした「音楽に関わりのある活動」及び、スライド等視聴覚についての全ての資料、研究紀要・指導計画・指導案の情報収集を行い、収集物が重複しないよう整理し、幼稚園毎に入力資料を指定して再度、より詳細な資料の情報、イメージ入力資料の提供を依頼する。

図-4 資料・教材の収集入力過程

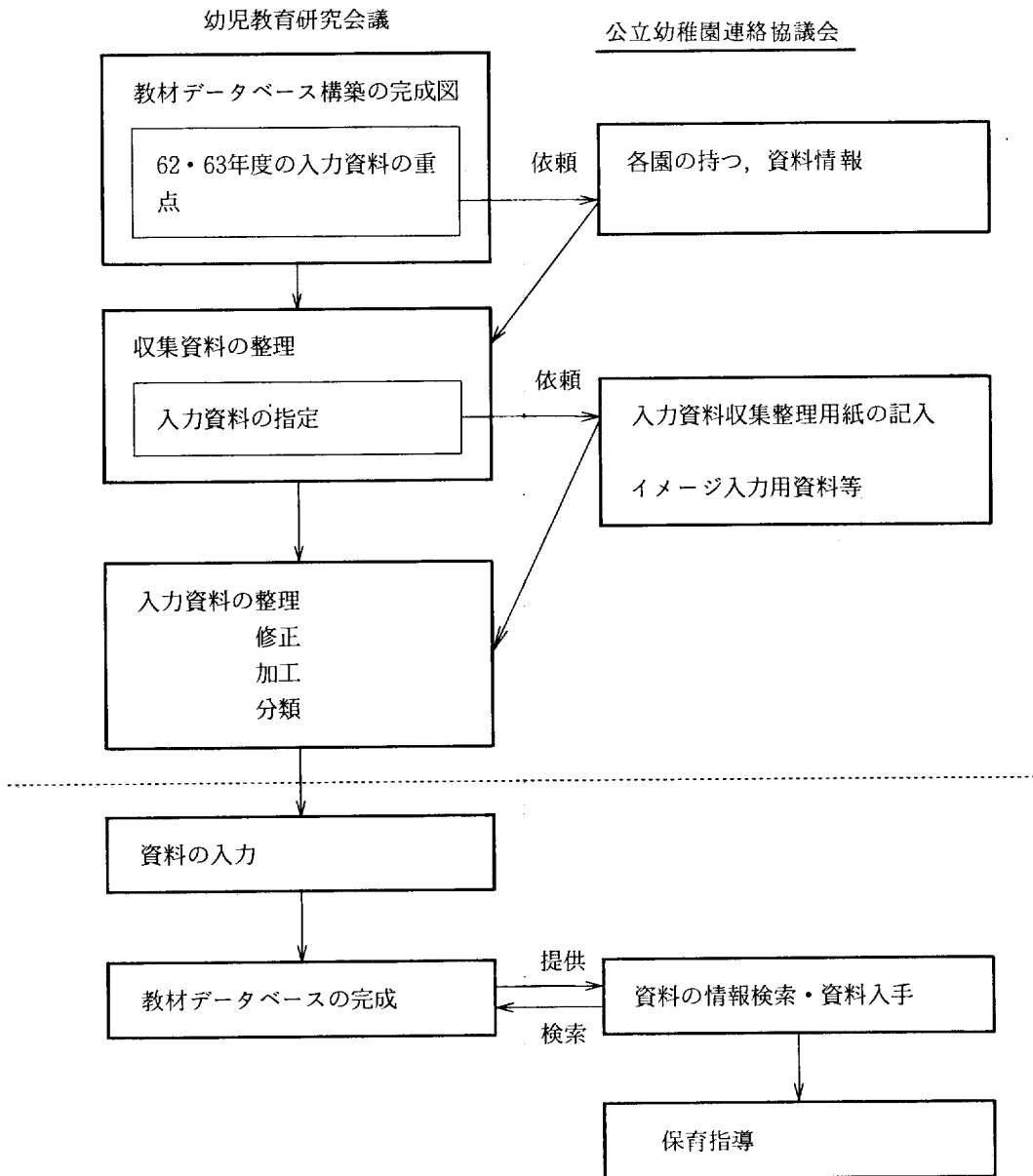


表-1 資料・教材の収集及び提供一覧

— 62・63年度入力予定

項 目	閲覧	印刷教材 としての 複写	映像教材 としての 複写	二次情報 としての 内容紹介	項 目	閲覧	印刷教材 としての 複写	映像教材 としての 複写	二次情報 としての 内容紹介
生活習慣	○		○	○	大道具・背景装飾		○	○	○
安全生活	○	○	○	○	小道具・扮装		○	○	○
集団生活	○		○	○	カード・プレート	○	○	○	○
行事	○	○	○	○	歌	○			○
鬼遊び	○		○	○	楽器	○		○	○
集団遊び	○		○	○	わらべうた遊び	○		○	○
運動遊び	○		○	○	伝承遊び	○		○	○
固定道具の遊び	○		○	○	手遊び・指遊び	○		○	○
水遊び・砂遊び	○		○	○	フォークダンス	○		○	○
造形遊び	○		○	○	リズム・身体表現	○		○	○
雪遊び	○		○	○	研究紀要	○	○		○
ごっこ遊び	○		○	○	指導計画	○	○		○
玩具を用いた遊び	○		○	○	指導案	○	○		○
栽培・飼育	○		○	○	スライド				○
自然現象	○		○	○	TP		○		○
数・形	○		○	○	8ミリ・16ミリ				○
科学遊び	○	○	○	○	ビデオ			○	○
言葉遊び	○		○	○	レコード・CD				○
劇遊び	○		○	○	カセットテープ				○
描画	○		○	○	絵本・童話・図鑑				○
製作	○	○	○	○	紙芝居				○

(2) 資料の入力について

収集した資料及び、視聴覚－Ⅱ研究会議で開発したビデオ教材について、入力資料収集整理用紙に要領を記入し、受付番号等整理番号をつけ、受付年度別、資料の種類別に教材データベースとして入力する。

また、イメージ情報についても同様に、該当する資料を整えて入力を行う。

資料の入力については、幼児教育研究会議で整理したコンピュータ入力資料収集整理用紙を当センターの学習情報室からソフト会社に委託し、磁気テープにおとされる。ソフト会社からきた磁気テープは、当センターの情報処理室でコンピュータに入力され、印刷されて、再び幼児教育研究会議にもどり修正される。修正した情報は、同処理室でデータベースに登録され検索の対象となる。

以上のように、教材データベースの構築については、当センターの他の部署と様々につながりを持って進められる。

4. 検索の実行と情報の提供

このシステムの利用者は、検索の実行によって必要な資料についての確実な情報をすぐに、その場で得ることができる。資料の保存形態によっては、印刷教材としての複写、映像教材としての複製も可能となる。

① 一次情報の提供

一次情報として登録されているものは、二次情報を画面に表示した場合、保存形態にイメージと表示されている。その資料は、その一次情報を画面に表示することができる。表示してその資料が必要な場合は、直接オフィスプリンターから印刷することができる。

利用者は、これを持ち帰り各施設で印刷したり、TPシートにして保育で利用することができる。

イメージ情報には、参考図書の日次・指導計画・指導案・レコード、視聴覚教材及び製作物の紹介等がおさめられている。

・その他の一次情報の提供

資料庫に整理保管されている一次情報は、二次情報の保存形態項目の記述にあるような提供ができる。

② 二次情報の提供

検索により選択された資料の二次情報を画面に表示できる。表示されるのは、受付番号、棚位置番号、表題題名、著者名、出版社・製作社名、刊行年月日、掲載誌ページ、内容の要約、保存場所、保存形態である。ただし、入力時に空欄になっている項目は、表示されない。分類番号及び内容を表す用語は、表示の前画面で表示するかしないかを選択できる。また、画面に表示された二次情報は、印刷指示をだすことによりオフィスプリンターで利用者が自由に印刷することができる。

表-2 62・63年度 資料・教材の入力数

項 目	11月入力数	3月入力数
教師用参考図書	364	図鑑1含 95
スライド	316	
TP	68	
8ミリ	1	
16ミリ	0	
ビデオ(研究会議制作145)	106	63
レコード	210	
カセット	25	
紙芝居		20
指導計画	保育計画	16
	避難訓練	7
	交通安全	6
	誕生会	11
指導案		2
研究紀要		5
計	1090	225
		1315

5. ビデオ教材の現状

(1) 幼児教育に関するビデオ教材

ビデオ教材を自作するためには、市販のビデオ教材が現行の6領域のどこに属するものが多いか、どのような内容のものが多いかを調べ、市販のビデオ教材の現状を知ることが、大切な意味を持つと考えた。

視聴覚・ソフトの領域別の割合（ビデオ・ジャポニカ社）

- | | |
|---------|-----------------------|
| ・自然 37% | ・動物の生態 |
| ・言語 33% | ・名作童話 ・昔話 |
| ・社会 17% | ・基本的生活習慣 ・行事 ・乗り物 |
| ・音楽 8% | ・歌 ・鼓隊の指導 ・フォークダンスの指導 |
| ・健康 3% | ・しつけ ・交通安全 |
| ・絵画 2% | ・折り紙 |

この結果から、市販のビデオ教材は動物の生態と物語で7割近くを占めることが分った。その中に、表現活動を取り上げたものは、見当らなかった。また、NHKによる調査でも同様の結果となっている。

在宅幼児向け放送で、内容に表現を含む番組は、NHKの「おかあさんといっしょ」、フジTVの「ひらけ！ポンキッキ」等がある。これらを利用する園もあろうが、音楽リズムを含む6領域をカバーしていても、表現活動のために作られた部分は、わずかである。幼稚園・保育所対象の番組では、最近表現を重視したものが増えつつある。

また、教師を対象にして、表現活動の指導事例を扱ったビデオ教材はあまりなく、折り紙の折り方・鼓隊の指導などを題材にしたものがみられる程度である。

(2) 表現活動に使いたいビデオ教材の内容

市内各幼稚園の教諭を対象に、どのようなビデオ教材が表現活動に必要なアンケート調査をしたところ、次のような傾向がみられた。

① 教師用に欲しいビデオ教材の内容

- ・身体表現のいろいろな指導パターンや基本的な展開例
- ・体操・フォークダンス・手遊び・指遊びなどのやり方が、見て分るもの

このように、研修用の教材としては、指導の方法・遊びやゲームのやり方についての要求が高かった。また、指導者が知識として知っておきたいこととして、動植物の生態、専門家によるバレエ・ダンス・パントマイムもあった。

このことから、表現活動に必要な教師用ビデオ教材は、次のようになる。

遊び方を覚える	：手遊び・指遊び・童歌遊び・伝承遊び等
保育の参考にする	：教師の指導の展開例・子どもの反応例

② 幼児に直接見せたい教材の内容

- ・ダンス・ゲーム・手遊びのやり方
- ・身近な動物などの様子・動きの分るもの
- ・海の中・花火など保育のなかでふだん見ることのできないもの
- ・子どもたちが表現活動をしている様子

以上のものが多かった。また、その他として、曲のイメージ作りができるようなもの、めずらしい楽器の使い方などもあがっている。

このことから、表現活動に必要なビデオ教材をテーマ別にまとめると次のような内容になる。

動物	：カエル・ザリガニ・ウサギ等の飼育しているもの ゾウ・サル・ラッコ等の親しみやすいもの
植物	：アサガオ・チューリップ・タンポポ等の身近なもの
自然現象	：雨・波・風 等
人間	：おかあさん・あかちゃん・大工さん 等
遊び・生活	：竹トンボ・なわとび・花火・おもち・ポップコーン 等

6. ビデオ教材の制作

(1) 制作の視点

① 指導者研修用ビデオ教材の視点

子どもに教える為に教師が遊びを覚えるもの 手遊び・指遊び・童歌遊びなどがある。これは、手の使い方、歌、参加する時のルールなど遊びをする時の基本的な決まりを、TVを見て正確に覚えるためのものである。したがって、このビデオによって、教師が童歌遊びを覚え、子どもに指導する時に使うことができる。

保育の参考にするもの 遠足・集会・誕生会などがある。詳しく正確に知ることよりも、「どんな感じの場所だろう」「劇で子どもはどう動くだろう」「流れはどんな順番か」などを捉えるためのものである。したがって、このビデオによって、内容の概略を知り、教師が独自の計画を立て指導する時の参考にすることができる。

② 幼児用ビデオ教材の視点

知る（わからせる）教材 これは、子どもが事実そのものを客観的に観察し、幼児自らが映像を媒体にして、体験的活動を行うことに重点を置いた教材である。基本的には、身近なものを中心に上げ、子どもが世話をしたり、触れたりできるものが望ましい。既知のものであっても、観察する視点を変えることにより、子どもにとっては未知の事実が発見され、幼児の経験領域も広がり、より親しみがわくだろう。

そのためには、どの視点から観察させるか、具体的なものを示す必要がある。また、特徴部分の比較や、繰り返し、時間の短縮等により、特徴を印象づけることも大切になる。

感じる（つつみこむ）教材 子どものイメージの中に入り込み、映像と自分が一体感を持つような要素のある教材である。子どもの気持ちが映像の中に入り込み、楽しくて言葉が出たり、体が動いたりすることをねらっている。映像で包み込みイメージをふくらませていくことにより、自分の思考や表現を深めていくようになるだろう。

子どもの共感を得るためには、音楽やナレーションを効果的に使い、子どもを情動的な雰囲気にする。軽快な音楽、静かな曲などを使い分けたり、ウサギやザリガニの気持ちになったナレーション、働きかけの言葉を入れたナレーションを使うことも大切になる。

広がる（ふくらませる）教材 この教材は、子どものイメージが広がるような要素を持つ教材である。子どもたちのイメージにない事実や、目につきにくい動き、気づきにくい部分等を映像で与えることにより、既知のものからいろいろなものを連想し、関連づける活動に繋がる。それにより、子どもの持つイメージが広がり、より柔軟な思考力・表現力が引き出されるようになる。

一つの素材をいろいろな角度で捉え、それぞれの映像のイメージを作ったり、「はねる」と言う言葉からいろいろなものを連想したり、子どもにとって矛盾しているものや内容に飛躍のあるものなど、曖昧さの中から自由に発想できる番組構成が大切になる。

以上の三つがあるが、どれも互いに不可分の要素として関連しあい、一つの視点だけの教材ではなく、それぞれの視点に重点をおいた教材になる。

(2) 制作上の留意点

- ・手遊び・指遊びでは、指導者は左右を気にしないでTVを鏡と考え学べるようにする。
- ・行事は雰囲気や小道具、周りの様子が分かるように、劇遊び等は子どもの動きや小道具、衣裳の工夫が分かるようにする。
- ・幼児教育研究会議と話し合い、幼児の表現に必要な動き、撮影の観点をテーマごとに決める。
ウサギ：跳ぶ・ねころぶ・聞き聞をとてる・餌をたべる・身づくろい 等
雨：雨粒・雨垂れ・光っている雫・水溜まりで跳ねている 等
- ・なるべく自然の状態で撮影する。
- ・1カットを5～15秒ぐらいとし、幼児があきないように全体で2～3分の長さになるようにする。
- ・音声についても、音楽の有無・ナレーションの有無により使い方に変化を持たせられるようにする。
- ・ナレーションは、子どもの反応の良さを考えて、親しみのある女性の声にした。

(3) 現在までに制作したビデオ教材

表-4 教師用教材 (合計 96本)

手遊び指遊びシリーズ1	8	手遊び指遊びシリーズ2	7
手遊び指遊びシリーズ3	12	手遊び指遊びシリーズ4	9
手遊び指遊びシリーズ5 (子ども)	1	行事シリーズ	2
誕生会シリーズ1	3	誕生会シリーズ2	3
誕生会シリーズ3	1	遠足シリーズ	3
集会シリーズ1	2	集会シリーズ2	2
観賞会シリーズ	3	童歌遊び	5
楽器の使い方 (打楽器)	12	屋外遊び1	10
屋外遊び2	1	運動会シリーズ1	2
生活シリーズ1	2	その他	8

表-5 幼児用教材 (合計 50本)

食べ物シリーズ	6						自然シリーズ	5
動物	カエル	カニ	ザリガニ	ライオン	シロクマ	ヒグマ	マレーグマ	
	キリン	ウサギ	サル	イヌ	アヒル	ペンギン	ゾウ ラッコ	
	ウシ	サイ	アザラシ	ツバメ	ブタ	熱帯魚	その他 (合計39)	

(4) ビデオ教材に対する反応

うさぎの場合 (音楽)

- ・視聴前の動きは、両足をそろえたり、手を耳の代りに使ったりしたまま跳ねる子が多かった。また、跳ねる以外の動きは、ほとんどみられなかった。
- ・視聴後の動きは、跳びはねるのに四本の足を使ったり、立ち上がるような動作をしたりする子が出てきている。また、ねこのように顔を洗うしぐさを真似る子がいた。

カエルの場合 (カエルのナレーション)

- ・視聴中は真剣にみていた。子どもたちの中から、「手(指のこと)が3本だ。」「はりついている。」「雨が降ったからカエルが出てきたんだ。」などの声が出た。
- ・視聴後は、ストーリーの展開に合わせて、いろいろな動きがでてきた。研究保育が終了後も、カエルになりきったままで部屋を出ようとしている子もいた。

カニの場合 (音楽)

- ・視聴中は、目が飛び出ていることや長い足を少し高くして歩くことなどに気づいていた。
- ・視聴後の活動では、中腰になって歩いたり、驚いて穴にもぐりこむ動作をする子も多くいた。

ザリガニの場合 (ザリガニ・働きかけのナレーション)

- ・視聴中、ナレーションのことばに返事をしたり、一緒に話をしようとする子がみられた。
- ・視聴後すぐ、「ザリガニになって遊ぼう。」「池の用意をしなきゃ。」「草もいるんだよ。」という言葉が子どもたちの中から出てきた。

子どもたちは集中して画面に見入り、カエルやうさぎそのものになりきり、動きを考えていた。自分たちも、カエルやうさぎに近づいていき、同じ仲間のような気持ちになっていったためと考えられる。子どもたちは映像を素直に受け取り、自分の知らなかった動きやナレーションから新しい表現を考えたり、動物以外の周りのものにも意識を広げていった。

研究保育を行った教師から、「身体表現の場合、そのものの動きの特徴を捉えていないと表現できない。(ビデオ教材は、)視覚から入ってくるので、興味も集中し、動きがよく理解できて、教材としての価値は高いと思われる。」という意見が出された。

VI 考 察

この研究は、理論研究、資料調査、資料収集、入力用紙記入、資料取材等に多くの時間と労力が必要だったが、共同研究方式をとることによってデータベースの構築が実現できた。それぞれの研究会議の特性を生かしながら共通の主題にせまる研究方法は大変有効だった。

特に、視聴覚－Ⅱ研究会議は、ビデオ教材の開発に力を注ぎ、教師用、幼児用に種々の教材作りを行った。このように、現在ある情報や教材を収集・蓄積するだけでなく、新しい教材開発にも積極的に取組み、それをデータとして取り込んでいくデータベースの構築は、保育の充実へのステップとなる。情報の提供については、提供されたものがそのまますぐに活用できることが望ましい。情報だけでなく、保育教材の提供ができるよう入力することが、システムの利用者のニーズに応えることになる。

今後の課題と方向

1. 幼児教育全般にわたるデータベースとなるよう、さらに資料・教材の収集、開発を図ると共に積極的にその活用を推進していく。
2. 利用者調査を実施して、システムの点検と改善を図る。
3. 著作権上に関する諸条件について運用上の配慮をする。
4. ビデオ教材の数を一層増やすとともに、開発した教材の改定も行い、使用者の要求に応じて行く。
5. わらべうた遊びなど、地域の中で失われつつある素材を教材化し、記録保存していく。

幼稚園、保育所、社会教育施設、そして家庭への情報機器の導入によって、将来的にはこのデータベースがオンライン化し、生涯学習社会における幼児教育への活用が期待できる。

おわりに

最後になりましたが、本研究を進めるにあたり、親身にご指導下さいました電気通信大学教授滝沢武久先生、NHK教育放送センター学校放送部内田安昭先生に心からお礼申し上げます。また、研究をまとめるにあたりご助言をいただいた小学校視聴覚研究会長の今野実先生、幼稚園研修部長の中川幸治郎先生に深く感謝申し上げます。また、番組制作のもとになる、幼児の視聴に関する資料を数多く提供して下さいましたNHK放送文化研究所の小平さち子先生に心よりお礼申し上げます。

参考文献

- 小平さち子「子どもはこんな番組が好き」『幼稚園・保育所の時間』1987年
“ 「幼児教育とテレビ」『放送研究と調査』 1987年5月号
“ 「幼児の遊びとテレビ視聴」『放送研究と調査』 1987年7月号
“ 「『おかあさんといっしょ』と幼児の視聴行動」『放送研究と調査』1987年8月号
“ 「幼稚園・保育所におけるテレビの利用」『放送研究と調査』 1988年6月号
- 坂元 昂他「メディアを読む」ぎょうせい 1988年
芳賀 純他「映像と教育」日本放送出版協会 1986年
坂元彦太郎「幼稚園教育要領解説」フレーベル館 1985年
後藤忠彦他「情報システムをつくる⑤ メディア教育のすすめ」第一法規 1987年
大内茂男他「視聴覚教育の理論と研究」日本放送出版協会 1984年
野田 一郎「教師のためのビデオ制作入門」日本放送出版協会 1984年
後藤 忠彦「コンピュータと教育情報システム」東京書籍 1988年
櫛田 磐「視聴覚教材を創る」第一法規 1988年
ビデオジャポニカ「わが園でのビデオ教育」ビデオジャポニカ 1986年
教育情報科学研究会「教育情報科学2 教育とコンピュータ」第一法規 1988年
学校教育とコンピュータ研究会「情報化社会と教育」第一法規 1987年
吉田 武・桜谷昭夫・秋場尚樹「社会科（川崎の郷土資料）教材データベースの開発」『川崎市
総合教育センター研究紀要』 1988年

指導助言者

電気通信大学教授（専門員）	滝沢 武久先生	川崎市教育委員会指導主事	高橋 庸之先生
NHK学校放送部長	内田 安昭先生	川崎市総合教育センター	
川崎市立向丘小学校長	今野 実先生	第1研究室長	石川 一雄
川崎市立新城小学校長	中川幸治郎先生	第3研究室長	村井 守